

事業報告書

I 事業の概況

1. 事業の経過

全国的には緩やかに回復してきているかに言われる景気も地方では全く実感できず、私ども日帰り温泉を取り巻く環境は、年々その厳しさが増大し、先行き不透明感が漂う中で、また1年が過ぎてしまいました。

少子高齢化、人口減少問題等が全国的に大きな課題とされ、各市町村とも問題解決のための施策に頭を悩ませているところですが、我ら業界もその渦の中にすっぽりと飲み込まれた感があり、県内同業施設は軒並み年間の入館者数を大きく落としている現状です。

このような中、市ご当局からは格別なご配慮とご指導を頂きながら赤字幅の縮小に努めてきたところです。まずは、前年度で12万人を切る過去最低までに落ち込んだ入館者数の巻き返しを図るため、平成17年以来の入館料変更を7月に実施しました。浴衣とタオルセット付の料金体制からタオルセットのみの料金に変更し、大人850円から50円値下げして800円としました。

更に、今年度は25周年の記念年でもあり、記念イベント企画を毎月のように1年間打ち続け、なんとか入館者増へつながるよう努力しました。特に7月と9月の2回、新聞の折込チラシで入館料を今までの感謝の気持ちを込めたサンキューから390円クーポンを掲載しました。また、常連客の囲い込み策として、お正月期間中に、同じく390円の特別入館券を来館者に約4千枚配布しました。結果、入館者数は7月から3月まで対前年同月で増加が続き、前年比率で4.4%、人数では約5,300人の増加を見ることができ、合計124,888人まで回復することができました。

経営状況は、売上面で入館者が増え、売店など売上が増えた科目もありましたが、客単価の減少は避けられず、特に食堂では約180万円減少し、委託料収入を除くじよんのび館での売上高では前年比約200万円弱落とす結果となりました。また、販管費につきましては人員削減した人件費と入館料の変更で浴衣洗濯代が減少したりネン費などで計画通り削減できましたが、新たな施設利用費に開業以来25年がたち、いかにせん施設設備の修理等々予期せぬ経費が発生し、更に光熱水費についてはメーター管理するなどして使用量を減らしたにも拘わらず、値上げの影響で前年度より約340万円増加するなどし、努力もむなしく、前年度とほぼ同額に終り、今期も力及ばず当期損失を計上し、589万円の当期純損失を計上する結果となってしまいました。

元号も令和にかわり、気持ちを改め、前年度から3年間の指定管理を受けたなかで、何としても結果を残せるように、従業員全員が一丸となり、赤字額の減少、黒字転換にむけ鋭意努力していく覚悟です。新潟市ご当局をはじめ株主各位並びに関係各位の一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上